

要 望 書

令和4年10月24日

中央自動車道渋滞対策沿線経済団体協議会

中央自動車道における渋滞対策の促進について

中央自動車道の渋滞は、物流の停滞、企業立地や観光客誘致への障害、燃費悪化による経費増大など、長年、沿線の経済界に悪影響をもたらしてきました。

そのような中、首都圏及びその近郊における高速道路網においては、圏央道や外環道の全通に向けた整備拡充、東名横浜町田 I C～海老名 J C T 間の付加車線の完成と一部運用開始、中部横断自動車道山梨～静岡間開通など、渋滞緩和策や道路網の拡充などが年々図られてきています。

中央道においても、渋滞緩和策としてこれまでに、上り線調布インターチェンジ付近における付加車線の設置、同じく上り線三鷹バス停付近の道路線形の改良が完了し、現在は、小仏トンネルを含むその前後の上り三車線化や下り線相模湖バス停付近の登坂車線新設工事、また上り線三鷹バス停付近の付加車線設置事業が進められています。

これらについては大いに評価する一方、新たな懸念事項も予期されます。

新型コロナの影響から登場した新しい消費動向、すなわち生活必需品までもネット購入するという生活スタイルは、ニューノーマル（新常态）として定着し、こういった風潮は、必然的に物流需要の急増を促し、現状の交通網に弊害を及ぼすことも予想されます。

今後、アフターコロナにおいて急速に景気回復が進んだ場合、物流や観光客の急増により一気に深刻な渋滞を招く恐れがあります。また、昨今の燃料・原料高によるコストアップで、企業は経営体力を奪われています。

新型コロナによって疲弊した経済界においては、渋滞による燃費の負担を最低限に抑え、アフターコロナの景気回復の波に乗り、機会を逃さず、その恩恵を享受したいと考えます。

すなわち、渋滞対策により定時性が確保されることが、観光や物流をはじめ様々な業界に、又広範な地域に経済効果が最大限発現されることとなります。そのためにも渋滞対策事業は早期に完成させる必要があります。

中央自動車道の渋滞解消に向けて、事業中区間の一日も早い完成と更なる検討が進み、速やかに対策が実施されることは、沿線地域の経済界にとって大いに期待されることです。

つきましては、本協議会の総意として、次の事項を強く要望します。

記

1. 中央自動車道上り線小仏トンネル付近と、下り線相模湖付近及び三鷹バス停付近の渋滞解消に向け、渋滞対策事業を早期に完成させること
また、渋滞解消のための更なる検討を引き続き行うこと
2. 渋滞対策事業の完成予定時期を明確にすること

令和4年10月24日

中央自動車道渋滞対策沿線経済団体協議会



共同代表	甲府商工会議所	会頭	進藤 中
共同代表	八王子商工会議所	会頭	樫崎 博
共同代表	相模原商工会議所	会頭	杉岡 芳樹
	武蔵野商工会議所	会頭	高橋 勇
	青梅商工会議所	会頭	小澤順一郎
	立川商工会議所	会頭	川口 哲生
	むさし府中商工会議所	会頭	濱中 重美
	町田商工会議所	会頭	深澤 勝
	多摩商工会議所	会頭	伊野 弘明
	富士吉田商工会議所	会頭	堀内光一郎
	飯田商工会議所	会頭	原 勉
	駒ヶ根商工会議所	会頭	福澤 秀宏
	伊那商工会議所	会頭	唐木 和世
	岡谷商工会議所	会頭	小林 睦巳
	下諏訪商工会議所	会頭	小林 秀年
	諏訪商工会議所	会頭	岩波 寿亮
	茅野商工会議所	会頭	細田 秀司
	松本商工会議所	会頭	井上 保
	塩尻商工会議所	会頭	中島 芳郎